

専門職養成系大学において重点的指導が必要なスタディ・スキル

キーワード：スタディ・スキル、初年次教育、専門職養成、読むスキル、実習

○岩崎保之¹⁾、佐藤貴洋¹⁾、海老田大五朗¹⁾、原田留美¹⁾
新潟青陵大学¹⁾

I 目的

本研究は、新潟青陵大学（以下、本学）において開講しているスタディ・スキル養成科目「入門ゼミナールⅠ・Ⅱ」を履修した経験のある学生を対象にして、同科目の役立ち感や各種実習で必要とされたスタディ・スキルの内容に関する意識を調査することを通して、看護師や社会福祉士といった専門職の養成を旨とする大学における初年次教育で、重点的に指導すべきスタディ・スキルは何かを明らかにする。

II 方法

2013年2月と4月、卒業直前の本学4年生と進級直後の本学2～4年生を対象として、自記式による質問紙調査を実施した。4月調査については、進級前の学年である1～3年生による回答として扱った。

調査内容は、①学習・生活習慣の形成状況（12問）、②スタディ・スキルの習得状況（20問）、③実習経験の有無と種類（14種類）、④実習先で必要とされたスタディ・スキル（8問）、⑤入門ゼミナールⅠ・Ⅱの履修経験、⑥入門ゼミナールⅠ・Ⅱの役立ち感（各9問）であり、順序尺度には5件法を採用した。

倫理的配慮として、調査は無記名で行うため個人が特定されることはないこと、成績評定等には関係がないこと、回答は可能な範囲でよいこと、データは統計的に処理されること、調査結果は研究目的以外には使用しないことを質問紙の冒頭で明記するとともに、新潟青陵大学倫理審査委員会の倫理審査を受審（承認番号2012010号）した。質問紙の提出をもって、本調査への同意を得たものとみなした。

回収した全標本（ $n=804$ ）を分析対象とした。

III 結果

①学習・生活習慣の形成状況について、「欠席・遅刻・早退、私語や居眠りなどをしない」が平均値 3.55（ $SD=1.09$ ）と最も高く、「新聞を読む習慣がある」が平均値 2.19（ $SD=1.19$ ）と最も低かった。

②スタディ・スキルの習得状況について、「Microsoft Word や Excel の使用」が平均値 3.98（ $SD=0.90$ ）と最も高く、「テキストを効率よく読むことができる」が平均値 2.67（ $SD=1.07$ ）と最も低かった。

④実習先で必要とされたスタディ・スキルについて、「考えるスキル」が平均値 4.8（ $SD=0.53$ ）と最

も高く、「読むスキル」が平均値 3.77（ $SD=1.08$ ）と最も低かった。

⑥入門ゼミナールⅠ・Ⅱの役立ち感について、Ⅰ・Ⅱとも「調べたり、整理したりするスキル」が平均値 3.84（ $SD=0.98$ ）3.96（ $SD=0.92$ ）と最も高く、「ノートをとるスキル」が平均値 3.42（ $SD=1.06$ ）3.38（ $SD=1.06$ ）と最も低かった。

この⑥について、Ⅰ・Ⅱそれぞれで算出した主成分得点を基準として「役立った」群と「役立たなかった」群に分割し、②の有意差を多変量分散分析で検定した。その結果、Ⅰは18項目で、Ⅱは16項目で0.25%水準の有意差がみられた（有意水準は5%の1/20）。

また、14種類の実習ごとに標本を経験の有無で2分割し、それら2群間における④の有意差を多変量分散分析で検定した。その結果、「読むスキル」が7種類、「調べたり、整理したりするスキル」が6種類、「書くスキル」が5種類、「まとめるスキル」が4種類、「表現するスキル」「伝えるスキル」が2種類、「考えるスキル」が1種類の実習において0.63%水準の有意差がみられた（有意水準は5%の1/8）。

IV 考察

本学の学生は、入門ゼミナールⅠ・Ⅱに対して相当程度の役立ち感を認識している。しかしながら、習得意識が最も低い「読むスキル」については、実習の種類によってその重要性の認識が異なっていた。本学の学生においては、スタディ・スキルとしての「読むこと」の重要性が実習との対応において認識しづらい状況にあることが示唆された。

V 結論

専門職の養成課程において、学生は思考・判断・表現力や技能の習得に意識が向かいがちになる。しかしながら、実習先において資料等を的確に読み解くための「読むスキル」の伸長をリーディング習慣の形成も含めて指導していくことが、専門職養成系大学の初年次教育には求められる。

注 4年生のみを対象とした調査結果と考察は、佐藤貴洋・海老田大五朗・岩崎保之・原田留美、大学初年次におけるスタディ・スキル養成科目の展開—看護・福祉・保育・心理を学ぶ学生のために—、新潟市：ウエストーン；2013、において既発表である。